

1. 科目名 (単位数)	英語科指導法Ⅱ (4 単位)	3. 科目番号	EDEN3342
2. 授業担当教員	井草 玲子		
4. 授業形態	講義、演習 (ペア・グループ活動、ディスカッション、プレゼンテーション)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	英語科指導法Ⅰで学んだことを踏まえ、教育実習に必要な実践的な知識を身につけることを目標とする。授業の構成は以下になる。まず、学習者及び、言語活動のポイントに応じて、授業が展開できるよう、基本的な知識や指導技術を学び、次に、学んだことや自分で行った教材研究の成果を生かして、指導案を作成する。この指導案に基づいて、模擬授業を展開し、自己及び相互評価、ディスカッションを通して、授業の改善の可能性を探る。最後に、より良い授業を目指して、教授法と教授技術の学びを深める。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の目的を理解し、授業準備の手順に沿って実習校で準備できる素地を確立できる。 2. 教材研究 (教科用図書等) を深めることで模擬授業の指導案作成に必要な情報を入手し、指導案全体の構成を把握することができる。 3. 学習指導要領の「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力を踏まえた形で、領域別の学習到達目標、指導計画、そして評価規準を設定し、実際に指導案を作成できる。 4. 模擬授業の体験を通じて、英語でのインタラクションを指導に生かすことができる。 5. ICTを含む視聴覚教材の活用と教室管理により、より効果的な授業展開ができるよう、それらの知識を深めることができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>宿題：事前学習と事後学習の欄を見て、丁寧に授業の予習と復習を行うこと。</p> <p>課題：①文法の指導力向上のため、学期中に文法解説演習を数回課す。</p> <p>②模擬授業評価レポート (毎回)</p> <p>③実施した模擬授業から得た知見を主に活かして50分間授業の学習指導案を最後に作成する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>①加藤茂夫・杉山 敏・荒木美恵子 共著『英語科教育実習ハンドブック 第4版』大修館書店。</p> <p>②文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編』開隆堂。</p> <p>③文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編 英語編』開隆堂。</p> <p>④笹島準一・阿野幸一代表 <i>New Horizon English Course 1</i> 東京書籍</p> <p>④笹島準一・阿野幸一代表 <i>New Horizon English Course 2</i> 東京書籍</p> <p>【参考書】</p> <p>教育実習を考える会『教育実習生のための学習指導案作成教本 英語科[改訂版]』蒼岡書店</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の目的を理解し、授業準備の手順に沿って実習校で準備できる素地を確立できるようになったか。 2. 教材研究 (教科用図書等) を深めることで模擬授業の指導案作成に必要な情報を入手し、指導案全体の構成を把握することができるようになったか。 3. 学習指導要領の「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力を踏まえた形で、領域別の学習到達目標、指導計画、そして評価規準を設定し、実際に指導案を作成できるようになったか。 4. 模擬授業の体験を通じて、英語でのインタラクションを指導に生かすことができるようになったか。 5. ICTを含む視聴覚教材の活用と教室管理により、より効果的な授業展開ができるよう、それらの知識を深めることができるようになったか。 <p>○評定の方法</p> <p>以下の点を総合して評価する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コースワーク (授業中の態度・積極的参加度、ペア、グループワーク等) 総合点の20% 2. 指導案作成 総合点の30% 3. 模擬授業 総合点の25% 4. 期末テスト 総合点の25% <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得は基本的に認められない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習が始まると忙しくなります。時間のある今、教材研究を深めると共に、英語力の向上に努めてください。 2. 英語の教科書や教材は、教授理論の裏づけがあると、教材作成意図が分かり易くなり、応用もききます。又、折にふれて、春学期学習した指導方法の復習をしておきましょう。 		
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	この科目を受講するにあたっての留意点 第1部 教育実習へ行く前に 第1章 教育実習の目的	事前学習	これまで英語科指導法Ⅰで扱った英語教育に関する基礎知識をまとめて整理しておくこと。テキスト第1章に目を通しておくこと。
		事後学習	授業の流れをつかみ、教育実習の目的を理解する。
第2回	第2章 実習前の準備	事前学習	第2章を読み、教育実習前に考えておくべきことと、教育実習前に準備すべきことを確認すること。
		事後学習	実習前の準備として必要なことをリストアップし、いつ頃実行に移すべきか、予定表を作成しておくこと。

第3回	第3章 学校現場の現状 第4章 教育実習先で気をつけるべきこと	事前学習	第3章を読んで学校現場の現状を把握するとともに実習先で気を付けることを熟読し、よく理解すること。
		事後学習	教育実習先での注意点をまとめ、折に触れて目を通すこと。
第4回	第5章 授業観察	事前学習	授業観察の目的と方法を把握して、授業に臨むこと。
		事後学習	授業観察方法のうち、自身で活用できる方法の理解を深め、今後活用する。
第5回	第2部 教育実習先で 第6章 教材研究と指導案の作成 (1) 教材研究	事前学習	第6章を読んで、教材研究の概要・教科書全体の教材研究のポイント・単元全体の教材研究について、その概要を理解する。
		事後学習	教える立場で、どのように授業に導入するか考えを発展させる。
第6回	第6章 教材研究と指導案の作成 (2) 本時の教材研究	事前学習	第6章 p. 76 以降を熟読し、本時の教材研究のポイントを把握する。
		事後学習	文法事項の種類によって効果的な導入方法があることを押さえる。
第7回	第7章 学習指導案の作成 (1) 学習指導案の定義・作成上の留意点・授業の主な構成要素	事前学習	第7章を読んで、学習指導案の定義・作成上の留意点・授業の主な構成要素を把握する。
		事後学習	指導案の全体構成を確認し、作成上の留意点を再確認する。
第8回	第7章 学習指導案の作成 (2) 学習指導案の作成の具体的な方法	事前学習	第7章 p. 102 以降を熟読し、指導案作成方法を把握する。
		事後学習	模擬授業で担当する校種と学年を決め、使用予定の教科書を見て、指導案に盛り込むべき箇所の内容を眺めてみる。
第9回	第8章 学習指導案例 (1) 中学校英語学習指導案	事前学習	第8章 p. 110 以降を熟読し、内容を把握する。特に英文の指導案は、しっかり目を通し、指導案独特の語彙や表現に注意すること。
		事後学習	中学校学習指導案作成上の留意点を確認する
第10回	第8章 学習指導案例 (2) 小学校外国語学習指導案 (3) TT略案	事前学習	第8章 p. 118 以降を熟読し、内容を理解する。TT (team teaching) の仕方を把握する
		事後学習	小学校及び中学校の学習指導要領の類似点と相違点に注目し、指導案作成への理解を深める。
第11回	第8章 学習指導案例 (4) 高等学校英語コミュニケーションⅠ学習指導案、 (5) 高等学校論理・表現Ⅰ 学習指導案	事前学習	第8章 p. 125 以降を熟読し、内容を把握する。特に英文の指導案は、しっかり目を通し、指導案独特の語彙や表現に注意すること。
		事後学習	高等学校学習指導案作成上の留意点を確認する
第12回	第9章 授業の工夫	事前学習	第9章を熟読し、導入・指名・4技能統合のそれぞれのコツや、ペアやグループ活動の進め方のコツを把握する。
		事後学習	模擬授業で4技能統合学習や双方向の授業をどのように進めていくべきか、考察する。
第13回	第10章 教材・教具・ICTの活用	事前学習	第10章を読んで、黒板・線画・デジタル教材の活用について理解を深める。
		事後学習	教育機器を自分の模擬授業でどのように活かすかについて考えを発展させていく。
第14回	第11章 Team Teaching 第12章 教室管理	事前学習	第11章・第12章を読んで、TTと教室管理について、理解を深める。
		事後学習	TTと教室管理についてポイントをまとめておく。
第15回	第13章 教室英語 第14章 ユニバーサルデザインを考慮した指導	事前学習	第13章の教室英語を学習し、有益な表現を声に出して練習する。第14章を読んで、通常学級における障がいを持つ児童・生徒の支援について理解する
		事後学習	第13章で学習した教室英語を、模擬授業や教育実習で積極的に活用していく。第14章で学んだことを、今後の実習で活かしていく
第16回	第3部 教育実習を終えて 第15章 実習の振り返り	事前学習	第15章を読んで、振り返りの重要性を理解する。
		事後学習	アクションリサーチの枠組みによる振り返りと授業改善について理解を深めていく。
第17回	模擬授業第1回目(1) Grammar (授業観察)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第18回	模擬授業第1回目(2) Grammar (授業観察眼養成)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。

第19回	模擬授業第1回目(3) Grammar (文法の導入方法)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第20回	模擬授業第1回目(4) Grammar (文法の練習方法)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第21回	模擬授業第1回目(5) Grammar (文法の発展練習方法)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第22回	模擬授業第1回目(6) Grammar (文法指導から4技能の養成方法)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第23回	模擬授業第2回目(7) Reading (授業観察)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第24回	模擬授業第2回目(8) Reading (授業観察眼養成)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第25回	模擬授業第2回目(9) Reading (読解指導のPre-reading)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第26回	模擬授業第2回目(10) Reading (読解指導のIn-reading)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第27回	模擬授業第2回目(11) Reading (読解指導のPost-reading)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第28回	模擬授業第2回目(12) Reading (読む技能から他の技能への発展養成)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第29回	模擬授業総括	事前学習	これまでの模擬授業を振り返る。
		事後学習	模擬授業を通じて学んだことを、実習準備に活かせるようにしていく。
第30回	全体総括(英語教育の現状と今後の展望を踏まえて)	事前学習	教育実習に向けての必要事項を改めて考える。
		事後学習	実習に向けてすべきことを着実にこなせるよう計画立てた準備ができるようにする。
期末試験			